

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770302438		
法人名	有限会社 アルコップ		
事業所名	グループホーム 縁寿の園 しだれ桜		
所在地	福島県郡山市中田町赤沼字瀬戸 65-1		
自己評価作成日	平成24年6月30日	評価結果市町村受理日	平成24年12月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=07
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成24年8月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

身体拘束チェック表を毎月実施し、少しでも気になる所はお互いに注意し合い職員間で意識づけを徹底している。アセスメント用紙を活用し常に思い立った事を記入しケアプランに盛り込んでいく。月1回は必ずドライブ、買い物、と外出を計画立てて、小人数でも何回かに分散して楽しんでいる。また、近くには神社があり、日々の散歩コースになっており、毎日の日課となっている。今年度は地区の班長になっており、町内会の会費を集めたり、回覧板の回しを入居者さんと一緒に歩いており、地域の一員としての活動が出来ていると思っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 1 事業所は地域密着型サービス事業所の社会的役割を認識し、地域に根差した活動を実践している。町内会に加入し今年度は地区の班長を担い、地域活動に積極的に参加し地域の一員として日常的に交流している。
- 2 近隣の幼稚園、小・中学校からは行事への招待等があり、また、事業所では児童生徒の訪問を受け入れ、交流している。
- 3 法人では外部評価の意義や効果を十分認識しており、「継続して外部評価をすること」を方針に毎年実施している。今回で設立時より継続7回目の外部評価である。
- 4 法人は職員の内部研修や研修会への派遣等を計画的に実施し、職員の資質向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	まごころ込めた旬のサービスという理念をモットーに常日頃、旬と言う事を忘れず何に対しても共有している。また、朝の申し送り時には理念を輪唱している。	事業所では地域密着型サービス事業を踏まえた「事業理念」「運営理念」を作成している。また、毎年各ユニットごとに理念を軸にした目標を作成し実践している。全職員が毎朝の申し送り時に唱和し共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は地域町内会の班長を務め、年会費の徴収や、資料配布等を一緒に行っている。「お茶飲んで行きな」と声をかけられたり、住民から、庭に咲いている、花などを頂いてきていく。	今年度は町内会の班長を担い、町内会活動(地域清掃、近隣神社の清掃、祭り等)には利用者と共に積極的に参加し交流している。近くの幼稚園、小・中学校との交流も多く実践している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	住民からの要望でパンフレットを配り、認知症についての理解を得ていると思う。人材育成の貢献として、実習生を積極的に受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	2カ月に1回の開催をし、お互いの経過を報告又、メンバーからの意見や情報を頂き、サービス向上を期するために活かせるようにしている。	運営推進会議は定期的開催されている。委員は各分野から広く選任されており、毎回様々な意見や提案があり事業所運営やサービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加の呼びかけはしている。地区担当者の方とは来所時に声をかけ、利用者の事を報告したり、相談をしてくている。	外部評価の結果報告や関連業務について市に出向き担当者との情報交換に努め協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1度、ユニット毎の拘束チェック表を作成している。内部勉強会を開催しながら、身体拘束をしないケアにスタッフ間で周知徹底している。また、玄関の施錠は夜間以外は掛けないように、している。	全職員が拘束による弊害を十分認識しており、各ユニットで「拘束チェック表」を作成し、それぞれのユニット長が他方の状況をチェックする体制をとっており、拘束のないケアに努めている。日中の玄関施錠は無く、見守りにより対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての内部勉強会を実施している。また、それぞれ、スタッフ間でお互いに注意し合い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度の必要性の理解に努め、利用者、家族に情報を提供出来、支援できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には丁寧に説明をし、事業所やケアに関する方針などを可能な範囲で説明している。解約時は家族、利用者と相談し、良い方向を見ながら決めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望に挙がって来たことを各ユニットでまとめ提示板に貼っている。依頼されて来園している相談員の方からも意見を頂き参考にしながらケアの充実を図っている。	家族会が設置され、年2回の会議が持たれている。ここでの意見や家族の訪問時における意見交換などから家族の意向の把握に努めている。これらの意向は、月例の「運営検討会議」で協議し、日々の事業運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、運営検討会議を設けている。代表、管理者が出席し、各ユニットリーダーからの意見要望を挙げてきている。	職員と管理者は気楽に話し合える環境にあり、職員の意見は月例の「運営検討会議」で話し合い、事業運営に反映される体制となっている。法人内のすべての事業所に関する案件は法人にも上げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月運営検討会議時に、状況報告や意見交換をし、職場風土作りに努めている。勤務年数やその人に合った外部研修に積極的に推薦し参加させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県、社協、連絡協議会の研修には、その人に合った研修に参加している。また、研修後ユニット会時に研修した内容を発表する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が出席する情報交換会が2カ月に1回あり、地域の事業者との連絡、情報を得ている。また数人ではあるが、交換研修を実施して、得て来たことをスタッフ間で情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報を共有しながら、家族の想いや気持ちで支援出来るよう、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族や本人と話し合いをしてコミュニケーションをとりながら、耳を傾けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族様の要望、希望する支援をしている。又、職員が新たに築いた支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の個性に合わせたサービスをこころがけ、いろいろな事を通して喜怒哀楽を共有し、共に暮らすパートナーとなるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の想いに寄り添い、また、コミュニケーションを取れるよう日々の暮らしの出来ごとや気付きの情報を伝達し家族と同じ気持ちで支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や友人が自由に面会また、外出してくるような関係を継続されている。また、呼びかけもしている。	毎月、定期的に友人の訪問があり、外出の機会もある。これら馴染みの関係が継続できるよう送迎などの支援もしている。訪問理美容師を受け入れており、入居後の新しい馴染みの関係も出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が話しや相談ができるよう支援している。また、コミュニケーションが困難な方へは職員が間に入り関係を構築できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了しても家族からの相談があればいつでも心よく相談し支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	当グループホームも高齢化が進み医療依存度も高くなっている。3カ月に1回の見直しを軸にカンファランスを頻回に行いプラン化に努めている。	外出時の何気ない言葉や、日常サービスの中での言葉などに耳を傾け、本人の意向の把握に努めている。把握した意向等については、個別記録等に記入し、モニタリングに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日頃のケアの中から又、企画行事の催の中から本人の生活状態を把握出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	睡眠状態、健康状態をチェックしながら、生活リズム、ケアプランを基に把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人ご家族からの意向や会話の中から、又、健康面からニーズを引き出しプラン化している。担当スタッフが主となりモニタリングし意見情報交換している。	本人、家族等の意向を把握し、関係者が話し合い利用者の実情に即した介護計画を作成している。また、個別記録をもとに本人、家族の意向、職員の気づき等を踏まえ「モニタリング表」を作成し、月例のサービス計画検討会議で話し合い、介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイル、支援経過にて、心身状況、家族の意向などを確認出来るように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の意向などをスタッフが推測し代弁出来るよう信頼関係を築いていけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアによる、語り部やハーモニカ演奏などを楽しみにしている。また、一緒に踊りなども参加して楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	介護スタッフと看護師との連携を大切に、月2回の主治医訪問診療時、報告出来るようにしている。	かかりつけ医の受診には家族同伴を基本としているが、利用者の状況等により職員が送迎する場合もある。また、協力医療機関からは月2回の往診があり、適切な医療を受けられる体制となっている。受診結果は事業所と家族が報告し合い情報の共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のケアの中で気付いたことや不安な事に対してアドバイス、処置を行い、連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の場合、心身状態を書面、電話にてお伝えしたり、退院時より状態の説明を受け注意事項を確認、スタッフ間で周知している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	定期的に、ご家族と最期を迎えるにあたり方向性を決めている。流動的ではあるが、Dr. ご家族、スタッフ間で支援大勢を整えて行く。	「看取り介護指針」を作成しており、利用時に家族に説明し、同意書を取り交わしている。全職員が看取り介護の情報を共有して実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故対応のマニュアルを作成し、定期的に学習会を開き、又、OJT等でレベルアップを図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回の訓練を実施各災害に対応できるようにイメージトレーニングを心かけている。地域や委員の方への参加も依頼し協力体制を築いている。	消防署立会いの訓練は年2回実施されている。事業所単独の訓練も毎月実施され、時には近隣住民の参加もある。非常時の食料品等は備蓄している。	あらゆる災害を踏まえ、災害時に全職員が利用者をスムーズに避難誘導できるよう、数多く避難訓練を実施されることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員が個々の尊厳を考慮し言葉かけや、対応をお互いに注意を促している。個人情報取り扱いには十分注意を払っている。	利用者の人格を尊重し、言葉の暴力にならないように、トイレや入浴の誘導時、又はプライバシーにかかわるときには静かに声掛けをするなど配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の自己決定を尊重している。ニーズに合わせた飲み物や食べたい物を聞き、得意な分野は逆に応援して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の楽しみを持って過ごせるよう、利用者のペースを崩さず、無理のない支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、入浴時、本人と一緒に洋服を選び、好みの物を着ている。持参された化粧水、クリーム使用なども支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	誕生日などには、利用者様の食べたい物を準備し、おやつなどは一緒に手作りを楽しんでいる。	食材は業者納入で、調理全般は事業所内で行っている。近隣住民から野菜の差し入れも多く、変化のある食事に気を配っている。職員も一緒に食卓を囲み楽しい食事風景である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの栄養状態を把握し、好みの飲み物や季節感のある食事を考慮しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、昼、夕と利用者のペースに合わせて歯磨きの声かけを行い、自分で出来ない方、磨き残しのある方へは一部介助し清潔保持している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間、時間でトイレの声かけ誘導を行い、昼、夜の尿取りパットの使い分けをしている。また、職員が利用者のトイレの習慣を把握し、トイレでの排泄が可能になるよう支援している。	利用者全員の「排泄パターン表」を作成し、時間やしぐさ等からトイレに誘導し、オムツの使用量削減に努めている。利用者の介護度が進む中、出来る限り現状維持を目標に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取に留意し、体操、適度な運動、散歩を行い繊維質の多い食材を使用し、おやつ等には、ヨーグルトや果物など取り入れている。また、便秘が続く時は飲み物の工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴できるが体調や、バイタルに合わせて入浴の可否を利用者と相談しながら決めている。また、気持ちよく入浴していただくように入浴剤などを使用したり工夫している。	入浴は毎日利用可能である。入浴拒否者には時間や担当者を代え気分転換を図っており、週3回以上の入浴を目指している。ゆず・菖蒲などの季節風呂や入浴剤の利用など趣向を凝らしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、運動したり、散歩に出かけ、活動的に過ごす事に、心がけている。疲れた時やゆっくりしたい時は、たたみコーナーや居室で休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は職員が必ず確認し医師からの指示があった時はケース記録に記入し、職員間で把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花が好きな利用者には花を生けて頂き、時代劇が好きな利用者には、DVDを借りて観て頂いている。また、気分転換を兼ねて外出をして好きな物を購入してきている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や本人の希望、気分に応じて心身の活動に繋がるよう常に、散歩、ドライブ、買い物、ピクニックに出かけ、季節感を肌で感じて頂けるようにしている。	花見・紅葉・ドライブ等外出の年間計画を作成し支援している。利用者の日用品や事業所用品の買い物時に利用者と共に出かけ買い物を楽しんでいる。好天時には近くの神社までの散策や車いすでの外出支援は日課となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物やパンの訪問販売などの時に事業所で預かっている本人のお金を渡し、使用出来る様にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用できるが、希望は少ない。家族や友人からの電話は長く会話が出来るように支援している。手紙等が届き返事を書きたいとの声がある時は状況を見ながら、職員が代筆する時もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった物を利用者と一緒に制作し廊下や居室に飾っている。定期的には生け花を飾り、季節感を感じ、生活しやすい空間を作っている。乾燥しやすい時期などは加湿器を使用し湿度には十分考慮している。	共有空間は段差の無いフロアで掃出しの窓からベランダに出られる構造となっている。利用者は思い思いの場所でソファや畳コーナーで自由に寛いでいる。また、換気等にも配慮が行き届いており、快適な空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	たたみコーナーには座布団を置き、ひとりで自由に過ごしたり、ソファで仲の良い利用者同士くつろいで居られるスペースがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	家族に協力して頂き、使い慣れた、日用品、寝具や好みの物、写真などを持ってきて頂いている。また、大切な仏壇なども置き、毎日掃除している。	部屋は広くベッドとクローゼットが備え付けとなっている。空調も完備され、利用者はテレビ・仏壇・小型の応接セット等を持ち込み、自宅と変わらない雰囲気生活している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室など人目で分かるように、表示し、床の突起物には赤いテープで目印をつけ、ガラスには色のついた色のシールなどで印をつけている。		